

2022年度 芸術科「音楽Ⅰ」シラバス

科目	音楽Ⅰ	単位	2	学年	1年	使用教科書 副教材	高校生の音楽 1 (教育芸術社) 高校生の歌集 つどい(九州音楽教育研究会編)
----	-----	----	---	----	----	--------------	--

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情や態度を育む。日本及び世界の様々な音楽にふれ、楽曲そのものだけでなく、その背景となる文化や歴史についても理解を深め、幅広い視野で音楽を捉えられるようになる。
評価方法	定期考査・・・40% 実技テスト・・・40% 提出物・授業態度・発表点・その他等・・・20%

2 音楽Ⅰの評価の観点、規準

	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
観 点	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	楽曲の諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現を工夫し、表現の意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を近くし、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
規 準	楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。	旋律、強弱、リズム、速度など知覚・感受し、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	イメージをもって音楽表現するために、発声や発音、読譜、楽器の奏法などを身につけ創造的に表している。	楽曲の文化的歴史的背景、作曲者による表現の特徴、演奏者による表現の特徴を理解を深め、良さや美しさを創造的に味わって聴いている。

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	考 査 範 囲	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	主 な 教 材	評 価 の 観 点				評 価 方 法	配 当 時 間
						①	②	③	④		
1 学 期	4	期 末 考 査	【歌唱】豊かな声でハーモニーを楽しもう	①発声の基礎を学び、よい響きの声で歌い、よく調和する響きをつくる。	「校歌」 「ひまわりの約束」 「翼をください」	○	○	○		a	4
	5		【歌唱】イタリア語の歌曲を歌ってみよう	①イタリア語の特徴を理解して、曲想と歌詞の内容から表現方法を読み取る。 ②イタリア歌曲とナポリ民謡に親しみ、曲の持っている表現について創意工夫する。	「O sole mio」 「Caro mio ben」	○	○	○		a c	6
	6		【器楽】器楽アンサンブルに取り組もう。	①ミュージックベルを使って、歌いながら演奏できる。 ②各グループの発表を聴くことでその良さを見て、鑑賞能力を高める。	「エーデルワイス」 「DOREM」	○	○			a c	5
	7		【器楽】リズムアンサンブルを楽しもう。	①2拍目、4拍目にアクセントがあるオフビートの音楽をメンバー全員で共有する。 ②強弱や拍子感をもって、アンサンブルの演奏効果を高める。	「Clapping Quartet NO.1」	○			○	a c d	8
2 学 期	9	期 末 考 査	【器楽】三線を弾こう	①工工四を理解し三線の歴史・沖縄の音楽について学ぶ。 ②三線を弾きながら弾き歌いができる。	「安波節」「島人の宝」 「安里屋ユンタ」	○	○	○		a c d	7
	10		【鑑賞】クラシック音楽を味わおう	①シベリウスの曲のもつ雰囲気を感じ取りながら、作品に込められている祖国への思いも感じ取れるようになる。	「フィンランディア」	○	○	○		a b c	10
	11		【創作】イメージをもって曲を創ろう	①日常生活をテーマに歌詞をつくり、コード進行にあわせて、旋律を創作する。	各グループによる「創作曲」	○	○	○		a d	7
	12		【鑑賞】クラシック音楽を味わおう②	①シラーの頌歌をもとに、ベートーヴェンの表現した音楽から、その表現意図を読みとろう。	「ベートーヴェン第9番」	○			○	a c d	5
3 学 期	1	学 年 末	【器楽】器楽アンサンブルに取り組む、音楽会を開こう	①グループ発表会を通して、音楽の要素を知覚しながら相互評価をする。 ②グループの興味関心に応じた選曲、楽器編成で自主的な音楽演奏ができる。	「威風堂々」 「木星」	○	○	○		a b d	10
	2		【歌唱】合唱のよろこび	①音楽表現に必要な要素を理解し、それらの働きを生かして歌う。	「Circle Of World」	○	○	○		a b c	8
	3										

《評価方法》 a. 授業に対する意欲 / b. 学習ノート / c. ワークシート・自己評価表・相互評価表 / d. 実技テスト・定期考査

2022年度 芸術科「音楽Ⅱ」シラバス

科目	音楽Ⅱ	単位	2	学年	2年	使用教科書 副教材	MOUSA 2 (教育芸術社) 高校生の歌集 つどい(九州音楽教育研究会編)
----	-----	----	---	----	----	--------------	---

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
評価方法	定期考査・・・40%	実技テスト・・・40%	提出物・授業態度・発表点・その他等・・・20%

2 音楽Ⅱの評価の観点、規準

	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
観 点	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	楽曲の諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現を工夫し、表現の意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
規 準	楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	旋律、強弱、リズム、速度など知覚・感受し、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	イメージをもって音楽表現するために、発声や発音、読譜、楽器の奏法などを身につけ創造的に表している。	楽曲の文化的歴史的背景、作曲者による表現の特徴、演奏者による表現の特徴を理解を深め、良さや美しさを創造的に味わって聴いている。

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	考 査 範 圍	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	主 な 教 材 曲	評 価 の 観 点				評 価 方 法	配 当 時 間	進 行
						①	②	③	④			
1	4	期 末 考 査	【歌唱】歌詞の内容を理解して、表情豊かに独唱曲を歌おう	①姿勢や発声に意識を向けるとともに、歌詞の内容を理解してイメージをもって歌う。 ②歌と伴奏それぞれの役割をよく理解して表現に生かす。	「Ave Maria」 「Nel cor piu non mi sento」	○	○	○		a b c	4	
	5		【鑑賞】西洋音楽の歴史を理解するとともに、鑑賞の力を高めよう	①楽曲の文化的・歴史的背景や楽曲分析などから、楽曲の表現の特徴を理解するとともに、批判活動を通して主体的に鑑賞する。	「4分33秒」など	○			○	a c	4	
	6		【器楽】ポディーパーカッションやリズム創作をしよう	①リズムの読譜や記譜に関心を持ち音楽表現に生かす。 ②音楽材の構成に関心を持ち、イメージをもって創造的かつ主体的にリズム創作に取り組む。	「プレデュード1」	○	○	○		a d	6	
	7		【鑑賞】クラシック音楽を味わおう①	①シベリウスの曲のもつ雰囲気を感じ取りながら、彼が生きた時代背景を踏まえて、作品に込められている祖国への思いも感じ取れるようになる。	「フィンランディア」	○			○	a c	6	
2	9	期 末 考 査	【器楽】ギターの弾き歌いに挑戦しよう	①ギターの奏法と表現上の効果とのかかわりに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。 ②基本的な奏法、タブ譜、コード譜を習得する。	「糸」 「夢の中へ」 「いとしのクレメンタイン」	○	○	○		a b d	8	
	10		【創作】身近な物を使ってリズム創作をしよう	①リズムの読譜や記譜に関心を持ち音楽表現に生かす。 ②音楽材の構成に関心を持ち、イメージをもって創造的かつ主体的にリズム創作に取り組む。	「カップス」	○			○	a d	7	
	11		【歌唱】コーラスで美しい響きを追求しよう	①各声部の役割や声部間のバランスを理解するとともに楽曲にふさわしい表現やよりよい響きを習得し、アンサンブルを楽しむ。	「Hey 和」	○	○	○		a c	10	
	12		【鑑賞】オペラやミュージカルを楽しもう	①オペラとミュージカルの表現形態の特徴を理解して、舞台作品を歌う喜びや鑑賞する楽しさを味わう。	オペラ「道化師」 ミュージカル「ウェストサイド物語」	○			○	a d	6	
3	1	学 年 末	【創作】メロディーの創作と変奏や編曲に挑戦しよう。	①変奏や編曲に挑戦して表現の工夫の幅を広げる。 ②長調、短調の音階の特徴、旋律にふさわしい音の組み合わせ、つくった旋律にコードなどを作る。	モチーフを生かしてメロディを作ろう 「自作曲」	○	○	○		a c	15	
	3		【歌唱】音楽の世界を広げよう	①我が国も含めた世界の諸民族の声、楽器、身振りによる表現の特徴を理解し、音楽の多様性について理解を深める。	世界の諸民族の音楽 日本（演歌など）	○			○	a c	4	

《評価方法》 a. 授業に対する意欲 / b. 学習ノート / c. ワークシート・自己評価表・相互評価表 / d. 実技テスト・定期考査

芸術科「書道Ⅰ」シラバス

書道Ⅰ	単位数	2単位
	学科・学年・学級	普通科 第1学年 1～9組

1 学習の目標

学習の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	光村図書「書道Ⅰ」

2 評価の観点、評価規準

A 表現

書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・「評価カード」の記入状況 ・作品 ・提出作品 ・定期考査
書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・「評価カード」の記入状況
創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけ表している。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・作品 ・「評価カード」の記入状況

B 鑑賞

書への関心・意欲・態度	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について関心を持ち、書のよさや美しさを感じ取り、主体的に鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・「評価カード」の記入状況 ・作品 ・提出作品 ・定期考査
鑑賞の能力	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・「評価カード」の記入状況

3 学習計画

(1) 年間指導計画案

月	分野	学習内容 (教科書の構成)	配当 時数	学習活動
四月	書写から書道へ	1 書写と書道の違い	1	<ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の違いを学習する。
		2 用具・用材 ・文房四宝	2	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習に必要な用具・用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。
		3 姿勢・執筆法 ・いろいろな姿勢 ・執筆法		<ul style="list-style-type: none"> ・書く姿勢、腕の構え方、筆の持ち方について、いろいろな方法があることを理解する。 ・様々な線を引き、運筆方法の違いを知る。
	漢字の書	1 漢字の書を学ぶ ・漢字の成立と変遷 ・古典に基づく学習 【臨書】	1	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の成立と変遷について理解する。 ・臨書の意味や方法を理解し、関連する書道用語について学習する。
		2 楷書 ・楷書の成立と特徴	1	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書が成立する過程や楷書の特徴について理解する。
		臨書・鑑賞 ・九成宮禮泉銘	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「九成宮禮泉銘」の臨書を通して楷書の用筆、運筆、字形の取り方を理解する。
		・孔子廟堂碑	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「孔子廟堂碑」の特徴と「九成宮禮泉銘」との違いを理解し臨書する。

月	分野	学習内容 (教科書の構成)	配当 時数	学習活動
五月	漢字の書	・雁塔聖教序	2	・「雁塔聖教序」の特徴を理解して臨書する。
		・顔氏家廟碑	2	「雁塔聖教序」の特徴を理解して臨書する
		・半紙作品制作	4	・学習した古典の作品から好きな古典を選び、特徴や技法を活かした六文字程度の半紙作品を制作する。 ・作品を鑑賞し、感想を述べ合う。
・鑑賞会をしよう		2	・鑑賞カードをもとに、互いの作品を見せ合い、認め合う。	
六月		3 行書	2	・行書の成立と行書の特徴を理解する。
		・行書の成立と特徴 ・蘭亭序について ・行書の特徴(曲線)	2	・蘭亭序の書かれた時代背景を学習する。 ・曲線的な用筆を意識して蘭亭序を臨書する。 ・曲線的な運筆方法を習得する。
七月		・行書の特徴(線の連続)	2	・線が連続した用筆を意識して蘭亭序を臨書する。 ・線が連続した運筆方法を習得する。
		・線の特徴(太細)	2	・線の太細の変化に注意して蘭亭序を臨書する。 ・文字の中の太細の変化を理解し、表現することができる。
		・線の特徴(線の位置)	2	・線の位置によって文字周りの空間の変化を知る。 ・線の位置の変化に注意して蘭亭序を臨書する。
		・線の特徴(接筆)	2	・接筆によって変わる文字空間の変化を知る。 ・接筆に注意しながら蘭亭序を臨書する。
八月	半切作品制作	4	・行書の用筆、運筆、線の特徴について理解し、作品制作をする。	
九月	鑑賞	4	・書き上げた半切作品を鑑賞し、学習活動を振り返る。 ・自身と他者の作品を比較し、討論することができる。	
	篆刻 ・印の役割 ・篆刻とは	2	・印の役割と効果について理解する。 ・朱文・白文の効果について理解する。	
	・字調べ ・印のデザイン	2	・篆書について知る。 ・名前の篆書体を知り、篆書の法則に従って印をデザインする。	
十月	篆刻 ・印稿 ・布字	2	・印稿制作の役割を知る。 ・布字を行う。	
	・彫る	2	・印刀の使い方、刻しかたを理解する。	
十一月	・押印 ・鑑賞	2	・押印し、朱と白のバランスを理解する。	
	十二月	1 仮名の成立 ・仮名の種類 ・現在の仮名の種類 ・仮名の美	2	・仮名が成立する過程や仮名の種類などについて理解する。
2 仮名の用具・用材 ・用具・用材の種類		1	・仮名の用具・用材と、それぞれの特徴について理解する。	
3 仮名の筆使い ・いろいろな線		1	・仮名の基本的な線、運筆について理解し、練習する。	
4 平仮名の単体 ・古典から集字した平仮名		2	・平仮名の単体の特徴について理解し、練習する。	

月	分野	学習内容 (教科書の構成)	配当 時数	学習活動
一月	仮名の書	連綿 ・連綿の分類	2	・仮名を書く際の特徴である連綿について理解し、練習する。
二月		変体仮名 ・平仮名と変体仮名	2	・変体仮名について理解し、練習する。
		臨書・鑑賞 ・蓬萊切 ・高野切第三種	4	・仮名の用筆、運筆を用いて臨書する。
三月	漢字仮名まじりの書	鑑賞 ・名筆の作品を鑑賞	1	・漢字仮名交じりの書の成り立ちについて知る ・作品鑑賞し、感じたことを発言する。 ・作品の持つ特徴を探し、全体共有を行う。
		作品制作	3	・書きたい文章を探す ・作品イメージを作る ・イメージを表現し、制作意図を書く。
		鑑賞	1	・作者の意図を想像しながら作品を鑑賞する。
			70 時間	

評価 方法	<p>評価は具体的に次のものを対象にする。</p> <p>① 提出作品・・・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において本時の学習目標に応じた表現ができたかが評価の基準になる。</p> <p>② 作品の構想や感想・評価などを記した「評価カード」・・・自分の制作過程や授業内容の理解、自己評価などの充実。</p> <p>③ 学習活動への参加状況・・・用具用材の扱い（準備や片付け）、学習態度、意見発表等。</p> <p>④ 定期考査</p> <p>1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。</p>
----------	--

4 補足

確かな学力を身につけるための アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見るのが大切です。本時の授業内容が作品のどこを示しているのか、自らの考え、感性にもとづき表現しましょう。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「評価カード」はよく考え、丁寧に書きましょう。
授業を受けるにあたって守って ほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は大切に扱い、特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。

書道Ⅱシラバス

書道Ⅱ	単位数	2単位
	学科・学年・学級	普通科 第2学年 1～4組選択者

1 学習の目標

学習の目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	東京書籍「書道Ⅱ」

2 学習計画

(1) 年間指導計画案

月	文野	学習内容	学習内容	時数
4月	漢字の書	楷書 臨書・鑑賞 ・張猛龍碑 ・蕭季直表 ・魯宝子碑	書道Ⅰでの楷書の学習を踏まえて、より個性的で多様な楷書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「人物」「時代背景」なども活用する。 ・楷書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。	8
5月		2 行書 臨書・鑑賞 ・集王聖教序 ・瀧頂匿名 ・蜀素帖	・書道Ⅰでの行書の学習を踏まえて、より個性的で多様な行書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「人物」「時代背景」なども活用する。 ・行書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する ※「字形と筆順」なども活用する。	8
6月		3草書 ・草書の美 臨書・鑑賞 ・書譜 ・十七帖（逸民帖） ・自叙帖	・書道Ⅰでの草書の学習を踏まえて、より個性的で多様な草書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「人物」「時代背景」なども活用する。 ・草書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。	6
7月		4 隷書 ・隷書の美 臨書・鑑賞 ・礼器碑 ・張遷碑 ・開通褒斜道刻石 ・敦煌漢簡 ・古典の特徴を理解し表現できるか。	・書道Ⅰでの隷書の学習を思い出しながら、隷書の特徴や用筆について理解を深める。 ・書道Ⅰでの隷書の学習を踏まえて、より個性的で多様な隷書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「時代背景」なども活用する。 ・隷書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。	6
9月		5篆書 ・篆書の美 臨書・鑑賞 ・石鼓文 ・臨石鼓文	・書道Ⅰでの篆書の学習を思い出しながら、篆書の変遷について理解を深める。 ・書道Ⅰでの篆書の学習を踏まえて、より個性的で多様な篆書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「時代背景」等も活用する。 ・篆書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。 ※「字形と筆順」等も活用する。	6
10月		6制作の手順 制作参考作品	・制作の手順に従い、漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作する。 ・制作参考作品を鑑賞し、感想を述べ合う。	4

1月	1 篆刻 ・歴史と用法 ・押印・発表の方法 ・生活の中の印 創作の手順 創作参考作品	・篆刻の歴史や押印、発表の方法などを理解する。 ・創作の手順に従い印を完成させて、押印する。 ・創作参考作品を鑑賞する。	8
12月	1 仮名の美の展開 ・古今和歌集に見る展開 臨書・鑑賞 ・粘葉本和漢朗詠集 ・関戸本古今和歌集 ・三色紙（紺色紙）（升色紙）（寸松庵色紙）	・書道Ⅰの学習を踏まえて、日本独自の仮名の美を鑑賞し日本の伝統文化を理解する。 ・書道Ⅰでの仮名の学習を踏まえて、より個性的で多様な仮名の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「歌の意味」なども活用する。 ・仮名の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。	7
1月	2 連綿 ・連綿の学習 ・変体仮名の学習 3 仮名一覧表 ・平仮名・変体仮名 4 行書き・散らし書きの学習	・書道Ⅰの学習を踏まえて、連綿による文字の表情の変化と効果について理解を深める。 ・書道Ⅰの学習を踏まえて、平仮名と変体仮名の用筆、字形の取り方について理解を深める。 ・書道Ⅰの学習を踏まえて、行書きと散らし書きの基本的技法を理解する。	1 1 2
	5 仮名創作の手順 ・創作参考作品	・創作の手順に従い仮名の書で学んだ古筆の特徴や技法を生かして、創作する。 ・創作参考作品を鑑賞し、感想を述べ合う。	4
2月	1 漢字の古典を生かした表現 創作 ・蘭亭序に基づく表現 ・牛渚造像記に基づく表現 ・争坐位文稿に基づく表現	・書道Ⅰで学習した中国と日本の代表的な古典（楷書・行書）を鑑賞し、特徴を確認する。 ・それぞれの古典の漢字に調和する仮名の表現を考える。 ・漢字と仮名を調和させて、漢字仮名交じりの書を書く。	5
3月	2 仮名の古典を生かした表現 創作 ・粘葉本和漢朗詠集と関戸本古今和歌集に基づく表現 ・漢字と変体仮名の違いを分かりやすい例で伝える。	・仮名の名筆を二種取り上げて鑑賞し、特徴を確認する。 ・それぞれの名筆に調和する漢字の表現を考える。 ・仮名と漢字を調和させて漢字仮名交じりの書を書く。 ※粘葉本和漢朗詠集からは、漢字と仮名の調和を図ることを理解する。 ※関戸本古今和歌集からは、変体仮名を含む仮名の基礎・基本を身に付ける。	2
	漢字かな交じりの書 3 漢字と仮名の古典を生かした表現 ・蘭亭序と高野切第一種・第三種に基づく表現	・漢字と仮名の古典を鑑賞し、それぞれの特徴を確認する。 ・漢字と仮名の古典を調和させる表現方法を理解する。 ・漢字と仮名の古典を調和させて、漢字仮名交じりの書を書く。	2
			70

3 評価方法

評価方法	<p>評価は具体的に次のものを対象にする。</p> <p>① 提出作品・・・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において本時の学習目標に応じた表現ができたかが評価の基準になる。</p> <p>② 作品の構想や感想・評価などを記した「評価カード」・・・自分の制作過程や授業内容の理解、自己評価などの充実。</p> <p>③ 学習活動への参加状況・・・用具用材の扱い（準備や片付け）、学習態度、意見発表等。</p> <p>④ 定期考査</p> <p>1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。</p>
------	--

4 補足

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見るのが大切です。本時の授業内容が作品のどこを示しているのか、自らの考え、感性にもとづき表現しましょう。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「評価カード」はよく考え、丁寧に書きましょう。 ・創作においては感興に応じた表現を効果的に行うため、形式や詩文、用具・用材などを積極的に選択していきましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。 ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。

評価	<p>評価は具体的に次のものを対象にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各時間、提出を指示した「作品」 ・自分の制作過程や感想文など自己評価ができる「作品カード」 ・学習活動への参加状況（出席状況・学習態度・意見発表等） <p>1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。</p>
----	---

6 授業計画

学期	時	制作課題（学習内容）	教科書
1 学期	1	オリエンテーション（美術とは、教科書作品鑑賞）	p2-3 <美術とは何か>
	2	拡大模写（マス目を利用した模写の方法について）	
	3	デッサン基礎①（鉛筆の研ぎ方、直線・円の練習）	p128-129 <鉛筆デッサン>
	4	デッサン基礎②（形の取り方、陰影・質感・量感）	
	5	デッサン基礎③（背景着色）	p127 <いろいろな絵の具>
	6	デッサン基礎④（プレゼンテーション、鑑賞）	
	7	美術史①（名画44作品についてかるたを使った学習）	p100-124 美術史
	8	美術史②（名画44作品についてかるたを使った学習）	
	9	美術史③（名画44作品についてかるたを使った学習）	
	10	写真①（カメラの使い方、構図・光の表現について）	p142-143 <写真の基礎>
	11	写真②（グループ撮影会・鑑賞）	p90-93 <写真表現>
2 学期	12	平和の表現①（平和を表現している作品について、様々な表現方法につ	
	13	平和の表現②（制作1）	
	14	平和の表現③（制作2）	
	15	平和の表現④（プレゼン動画作成）	
	16	平和の表現⑤（展示発表・鑑賞会）	
	17	美術史④（名画44作品についてかるたを使った学習）	p100-124 美術史
	18	美術史⑤（名画44作品についてかるたを使った学習）	
	19	美術史⑥（名画44作品についてかるたを使った学習）	
	20	漫画表現①（漫画の表現について）	p40-41 <漫画の表現>
	21	漫画表現②（道具の使い方・描き方、つけペン練習）	
	22	漫画表現③（吹出しの効果について、1コマ漫画下書きペン入れ）	
23	漫画表現④（背景の効果について、スクリーントーン）		
3 学期	24	陶芸①（塑像と彫像、陶芸の道具・陶土・窯焼成、シーサーについて）	p54-59 <彫刻の魅力>
	25	陶芸②（成型）	
	26	装飾のデザイン（シーサーを引き立てる土台の装飾）	
	27	版画①（版画の種類と技法、アイデアスケッチ）	p140 <版画の種類>
	28	版画②（版の制作・転写）	p36-37 <版で表す>
	29	版画③（版の制作・彫り等）	p31-35 <浮世絵版画の魅力>
	30	版画④（刷りの工夫・研究）	
	31	版画⑤（色彩の組み合わせ研究、展示、鑑賞）	
	32	ポートフォリオ制作、まとめ・振り返り	p153 <これからの私と美術>

令和4年度 芸術科「美術Ⅱ」シラバス

教科（科目）	単位数	指導学年	学期	履修	教科書名
芸術（美術Ⅱ）	2	2	全	必修（選択）	高校生の美術2（日文）

1 概要及び目標 … 美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める

2 授業の展開と形態 …
 1・2組 → 2クラス3展開（美術、音楽、書道）
 3・4組 → 2クラス3展開（美術、音楽、書道）

3 学習方法 … 課題の設定理由や目標及び留意点などの説明を聞き、計画的に制作に取り組んでいきます。
 自発的な着想を大切にしながら提示された作例等を参考にしつつ、意欲的に粘り強く取り組んでください。自分なりの思いや考えをもって制作に臨めば、成果は作品に表れます。
 自身が納得し、愛着の持てる作品作りを目指しましょう。わからないことや悩んでいることは担当教諭に質問したり、周りの生徒に相談したりしてください。
 しっかり仕上げ、提出期限は守りましょう。

4 成績評価 … 各学期の課題への取り組みを評価の軸に、授業態度、提出課題（作品・ワークシート等）、プレゼンテーション、学期末テスト、用具の準備・片付け等を総合的に判断・評価する。

① 関心・意欲・態度	美術表現・鑑賞に関心を持っているか。表現意欲があり、主体的に制作取り組む態度を持っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況観察 ・提出課題（作品・ワークシート）
② 発想や構想の能力	表現のために材料の選択や技法の用い方を工夫しているか。自然や物事の見方、またテーマの把握に対して芸術的感受性を働かせているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況観察 ・提出課題（作品・ワークシート）
③ 創造的な技能	作品を造りだすために必要な材料の扱い方や、表現方法を身に付けているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況観察 ・提出課題（作品・ワークシート）
④ 鑑賞の能力	自他の作品の良さを感受し、理解しようとしているか。美術作品について特徴や自分の考えを述べることができるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・鑑賞ワークシート

5 その他（履修上の注意点）

美術は、見ることから始まります。観察する目を鍛え、世界にあふれる様々な分野の「美しいもの」や「表現されたもの」の面白さに気づけるようになります。そして、自らが創造に関わり造る喜び・表現する楽しさを味わうことで、発想力や情操が生まれ豊かな心を持つことができます。

※作品制作等の活動が授業時間内で終わらない場合、可能な限り放課後も美術室を利用できるようにします。

・妥協せず、納得のいくまで試行錯誤してください。

6 授業計画

学期	時	制作課題（学習内容）	教科書
1 学期	1	オリエンテーション（美術とは、教科書作品鑑賞“琳派と狩野派”）	p29、22～ 〈美術について考える〉
	2	かりゆしウエアのデザイン①（定義について、モチーフスケッチ）	p78 〈色彩〉
	3	かりゆしウエアのデザイン②（レイアウトデザイン）	
	4	かりゆしウエアのデザイン③（色の持つイメージ）	
	5	かりゆしウエアのデザイン④（プレゼンテーション、鑑賞）	
	6	美術史①（日本美術）	p60～ 美術史
	7	美術史②（日本美術）	
	8	校内スケッチ①	
	9	校内スケッチ②	
	10	校内スケッチ③	
	11	校内スケッチ④	
2 学期	12	ふうせん張り子①（土台張り子制作）	
	13	ふうせん張り子②（造形1）	
	14	ふうせん張り子③（造形2）	
	15	ふうせん張り子④（造形3）	
	16	ふうせん張り子⑤（装飾）	
	17	ふうせん張り子⑥（プレゼン発表会）	
	18	美術史③（日本美術）	p60～ 美術史
	19	美術史④（日本美術）	
	20	版画①（版画の種類と技法、アイデアスケッチ）	
	21	版画②（版の制作・転写）	
22	版画③（版の制作・彫り等）		
23	版画④（刷りの工夫・研究）		
3 学期	24	陶芸①（塑像と彫像、陶芸の道具・陶土・窯焼成について）	p34～ 〈彫刻の魅力〉
	25	陶芸②（荒練り・菊練りの練習）	
	26	陶芸③（ろくろの練習）	
	27	陶芸④（成型）	
	28	陶芸⑤（焼成）	
	29	陶芸⑥（プレゼンテーション、鑑賞）	
	30	装飾のデザイン①（アイデアスケッチ）	
	31	装飾のデザイン②（制作、ラッピング）	
	32	ポートフォリオ制作、まとめ・振り返り	p153 〈これからの私と美術〉

令和4(2022)年度 シラバス 芸術(総合美術)

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術(総合美術)	3	3	なし	なし

芸術科
芸術(総合美術)

1. 学習目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

2. 授業の進め方や学習方法

毎單元ごとに、目標やねらい、取り組み方法等の説明をします。与えられた課題を、自己の表現で試行錯誤しながら、計画的に取り組んでいきます。美術の学習で身に付けた創造的な表現と鑑賞の力をさらに伸ばすことを目標にしています。学習活動の成果は作品や課題レポートに表れますが、結果だけ重視するのではなく、表現や鑑賞の過程での振り返りを大切に、自分なりの思いや考えをもって活動に臨んでください。わからないことや悩んでいること等は机間巡視の際に質問してください。問題解決のためのアドバイスをします。もちろん、提出期限にはしっかり守り仕上げましょう。

3. 評価(定期考査:25% 作品60% 提出物・授業態度・発表等 15%)

(下記の4つの観点から評価した1・2・3学期の成績を統合し、年間の学習成績とします。)

① 美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、美術文化を尊重し、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。
② 発想や構想の能力	感性や創造力を働かせて、独創的な主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
③ 創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題にあった表現方法を工夫し、個性を生かして創造的に表している。
④ 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や国際理解に果たす美術の役割、美術文化などの理解を一層深め、自己の価値観を働かせて、その良さや美しさを創造的に味わっている。

評価方法・観点	①	②	③	④	
学習状況観察	◎	○	○	○	授業時に実施
活動記録表	◎	—	—	○	自己評価を含む
課題レポート	○	○		◎	ワークシートを含む
作品	○	◎	◎	—	表現題材の成果として

4. その他(履修上の留意点等)

美術は、表現することから始まります。まず、表現意欲を持つことです。次に、造る喜びを味わい楽しむ。これらの態度を持つことが大切になります。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つことです。そうして、創造に関わることで発想力や情操を育てていきましょう。

※作品制作等の活動が授業時に終わらない場合、可能な限り放課後も美術教室を利用できるようにします。納得のいくまで試行錯誤してください。

5. 授業計画

学期	月	題 材	学 習 内 容	留 意 点 等
1 学 期	4	オリエンテーショ ン	・美術Ⅲの学習についてのあら まし、自己紹介	・美術の授業の取り組みや約束を確認する。
	5 6	○表現絵画「身近 なものを描こう	①身近なものを見つめ直し、よ さや美しさに気づき、感じ取っ たことや考えたことを基に構想 を練り、配置や構図を工夫して 表現する。	表現材料としての絵具に関心を持ち、その 成り立ちや性質、表現効果などについて意 欲的に理解し自分の表現に生かす。
	7	○鑑賞絵画 絵画の魅力を考 える	②作者の視点に着目して、絵 画を魅力的にしているものは 何かを表現の意図や工夫を 読み取りながら鑑賞し、表現につ なげる。	・視点の位置や遠近法、構図に十分工夫し、 奥行きのある空間表現について学ぶ。 ・普段見過ごしているような場所にも思わ ぬ発見があることを理解させ、楽しく表現 する意欲と態度を養う。
2 学 期	9 10	○絵画 (読書感想画)	①未完成の部分を完成させる	・読後の感想を絵で表現する。
	11	○彫刻	① イメージを表現する意味を 考える。 ② 形の構想 ③ 素材よる成型 ④ 作品の相互鑑賞	・イメージを湧出させて主題を生成すると ともに、量感や材質感などの造形要素の働 きを理解し、立体造形の表現技能を高める。
	12	鑑賞 デザイン	①「デザインの世界」 デザインの広がりを考える	幅広いデザインの世界や役割を理解し、デ ザインとは何か、デザインするとき大切な ことは何かを考えながら鑑賞し、表現につなげ る。
3 学 期	1	○私の好きな美術 作品	①鑑賞文作成 ②対象作品の選定 ③作品に関する調べ学習 課題レポートの作成	・美術作品の鑑賞を通して作者の心情や意 図、表現の工夫などを理解し、よさの美し さを味わいます。
	2	○鑑賞 ・1年間の反省	・授業をふりかえる	・次年度への課題を考える。